

4. 鳴門町

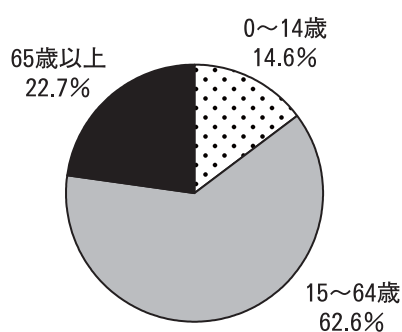
4-1 現 状

〈人 口〉

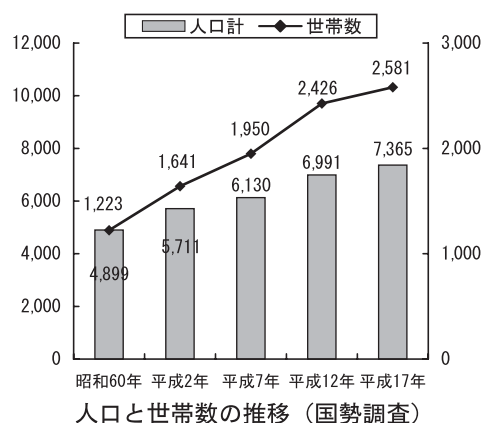
かつて最も人口の多かった土佐泊浦地区では、緩やかな人口減少が続いています。高島・三ツ石地区では、土地区画整理事業などにより住宅地が供給されたことから、平成2年頃から人口が増加しています。この地域の人口は全体として緩やかに増加しており、少子高齢化の進行も比較的緩やかですが、地区による差が見られます。

人 口	6,454 人	世 帯 数	2,886 世帯
世帯あたりの人数	2.2 人/世帯		
年 齢 別 人 口	年少 (0～14歳)	945 人	14.6 %
	生産年齢 (15～64歳)	4,041 人	62.6 %
	老年 (65歳以上)	1,468 人	22.7 %

※世帯数・人口：平成22年3月末現在住民基本台帳登録人口



年齢別人口割合 (平成22年3月末住民基本台帳)



人口と世帯数の推移 (国勢調査)

〈土地利用・市街地整備・都市施設・公共交通〉

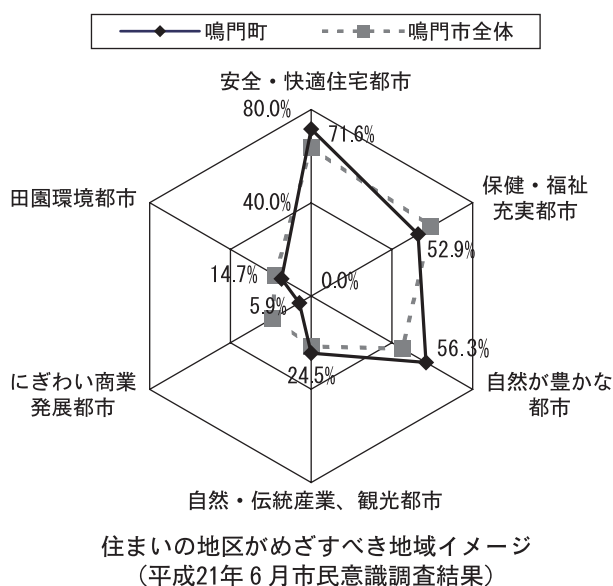
- 高島・三ツ石地区は市街化区域、土佐泊浦地区は市街化調整区域と、大毛島の東西で異なった土地利用となっています。
- 高島・三ツ石地区では土地区画整理事業により良好な住宅地が提供されており、ウチノ海総合公園などの都市計画公園や、鳴門教育大学と関連施設が立地し、水と緑が豊富な市街地が形成されています。
- 高島地区の旧集落では、狭あいな道路沿いに住宅が密集しています。
- 土佐泊浦は、瀬戸内海国立公園に指定された景勝地で、鳴門海峡にかかる大鳴門橋と渦潮が眺望できる鳴門公園、大塚国際美術館などの観光施設が集積し、本市を代表する観光地です。
- 土佐泊浦の海岸沿いには、リゾートホテルや保養所、リゾートマンションが立地しているほか、病院や福祉施設もあることから、雇用の場として他地域からの流入が多い地域です。
- 土佐泊浦の海岸沿いは農用地が多く、ラッキョウやかんしょなどの栽培が行われています。
- 大毛島の南部は小鳴門海峡に面しており、山際の平地に住宅が密集した特徴的な漁村集落が形成されています。
- 中心市街地方面を結ぶ徳島バス、鳴門市営バス、地域バスが運行されています。また、土佐泊と岡崎、高島と黒崎を結ぶ渡船が運航されており、市民の日常の足として利用されています。

〈その他〉

- 本地区は、東部は外洋に面した砂浜や磯、西部はウチノ海、スクノ海などの内湾、北部は鳴門海峡、南部は小鳴門海峡と変化に富んだ海辺の景観要素を持ち合わせています。
- 高島地区には、国指定文化財福永家住宅があり、製塩業で栄えた地域の歴史を伝える建物として保存されています。

4-2 課題

- ①高島・三ツ石の区画整理事業が行われた地区では、住宅の立地が進んだものの未利用のまま放置されている土地も多く、土地の有効利用を進める必要があります。
- ②高島の旧集落は、狭い道路が残されており、住宅が密集していることから、防災面で課題があります。
- ③都市計画道路の整備が進んでいますが、大型連休などの際には鳴門公園周辺の道路渋滞が発生しており、黒山中山線、横山高島線の未整備区間の整備が必要です。
- ④高島地区は、人口が増加していることから、今後も住環境整備と合わせて地域コミュニティの維持に努める必要があります。一方、土佐泊浦では、人口減少と少子高齢が進みつつあり、定住人口の維持と地域の活性化が必要です。
- ⑤地区内には商業地がないため、日常の買い物を中心市街地とその周辺に依存しており、今後、高齢化の進展に伴い移動困難者の増加が予想されることから、中心市街地への公共交通の確保が必要です。
- ⑥高島地区に鳴門教育大学が立地しており、今後の都市づくり・地域づくりを鳴門教育大学とより一層連携して進める必要があります。



地区懇談会での主な意見

- ・快適居住のまちづくりについて
- ・高齢化の進展に伴う公共交通の確保について
- ・福永家住宅の活用について
- ・黒山中山線の整備について
- ・ウチノ海総合公園の施設整備と利用について
- ・下水道事業の推進について
- ・農業・漁業・観光の振興と地域の活性化策について
- ・人口減少、少子高齢化の現状、法規制、人口増加策について

平成21年度実施地区懇談会

4-3 地域づくりの基本目標

以上をふまえて、地域づくりの基本目標を

- 海辺の景観と地域資源を活かした観光リゾート拠点のまち
- 豊かな自然環境を守り農業と漁業を振興するまち
- 海と緑に囲まれ学びと遊びが共存する快適な住環境のまち

とします。

4-4 基本構想

(1) まちづくりの拠点

①文化・観光拠点

鳴門公園地区は、美しい自然景観と既存の観光施設・資源を活かし、本市の観光リゾートの拠点として必要な整備を進めるとともに、観光複合施設の立地を検討します。

高島地区については、ウチノ海総合公園や塩田公園などの拠点施設を中心に、黒山中山線の整備に合わせて、鳴門公園地区との連携を図りつつ、観光周遊ルートの整備や道路関連施設の立地について検討を進めます。

鳴門教育大学については、地域に開かれた大学として公開講座や大学開放など本市の教育文化の向上に大きく貢献していることから、地区の文教拠点として位置づけ、大学との連携を推進します。

②水の拠点

土佐泊・亀浦漁港については、地域住民と都市住民の交流拠点形成に向けた施設整備について検討します。

亀浦港は、観光定期・不定期船、観光船及び海洋性レクリエーション基地として整備されており今後も観光、レクリエーション施設の整備を要請します。

③交通の拠点

鳴門北インターチェンジは、京阪神からの玄関口となっており、多くの観光客に利用されています。黒山中山線の整備に伴い、観光客の流れが変化することが予測されることから、道の駅など道路関連施設の立地について検討を進めます。

(2) まちづくりの軸

①広域軸

本地区を南北に神戸淡路鳴門自動車道が走り、四国と京阪神を結ぶ玄関口となっています。

②地域軸

鳴門公園方面へのアクセス向上のため、都市計画道路黒山中山線及び横山高島線の整備を推進します。また、県道鳴門公園線における鳴門スカイライン入口から都市計画道路黒山中山線の起点までの拡幅整備について検討します。

4-5 土地利用の方針

①住居専用ゾーン

土地区画整理事業により良好な住宅地が整備されていますが、一部で未利用地が残っていることから、低密度で良好な住宅地としての土地の有効利用を図ります。

②一般住居ゾーン

土地区画整理区域については、良好な住宅地が整備されていますが、一部で未利用地が残っていることから、良好な住宅地として土地の有効利用を図ります。

高島地区の一部住宅が密集している地区については、建築物の立て替えなどに合わせ、セットバックによる細街路の道路拡幅、行き止まりの解消、ポケットパークの整備等を進め、住環境の整備と防災機能の充実を図ります。

③都市緑地ゾーン

ウチノ海総合公園や塩田公園などの都市公園を中心に、周辺景観を活かした緑地・公園を計画的に配置します。

④農用地ゾーン

らっきょうの集団産地であり、今後も農用地としてより一層の生産性向上を図るため、必要な基盤整備を推進します。

農用地周辺の集落地については、環境との調和を図りながら、今後も農業者の生活の場としての機能が十分に維持されるよう集落のコミュニティの維持を図ります。

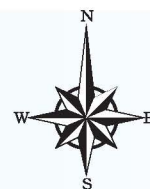
⑤山林ゾーン

地区の東側の山林は、ほとんどが瀬戸内海国立公園に指定されています。このため、観光地として必要な基盤整備との調和を図りながら、自然環境の保護と乱開発の防止に努めます。

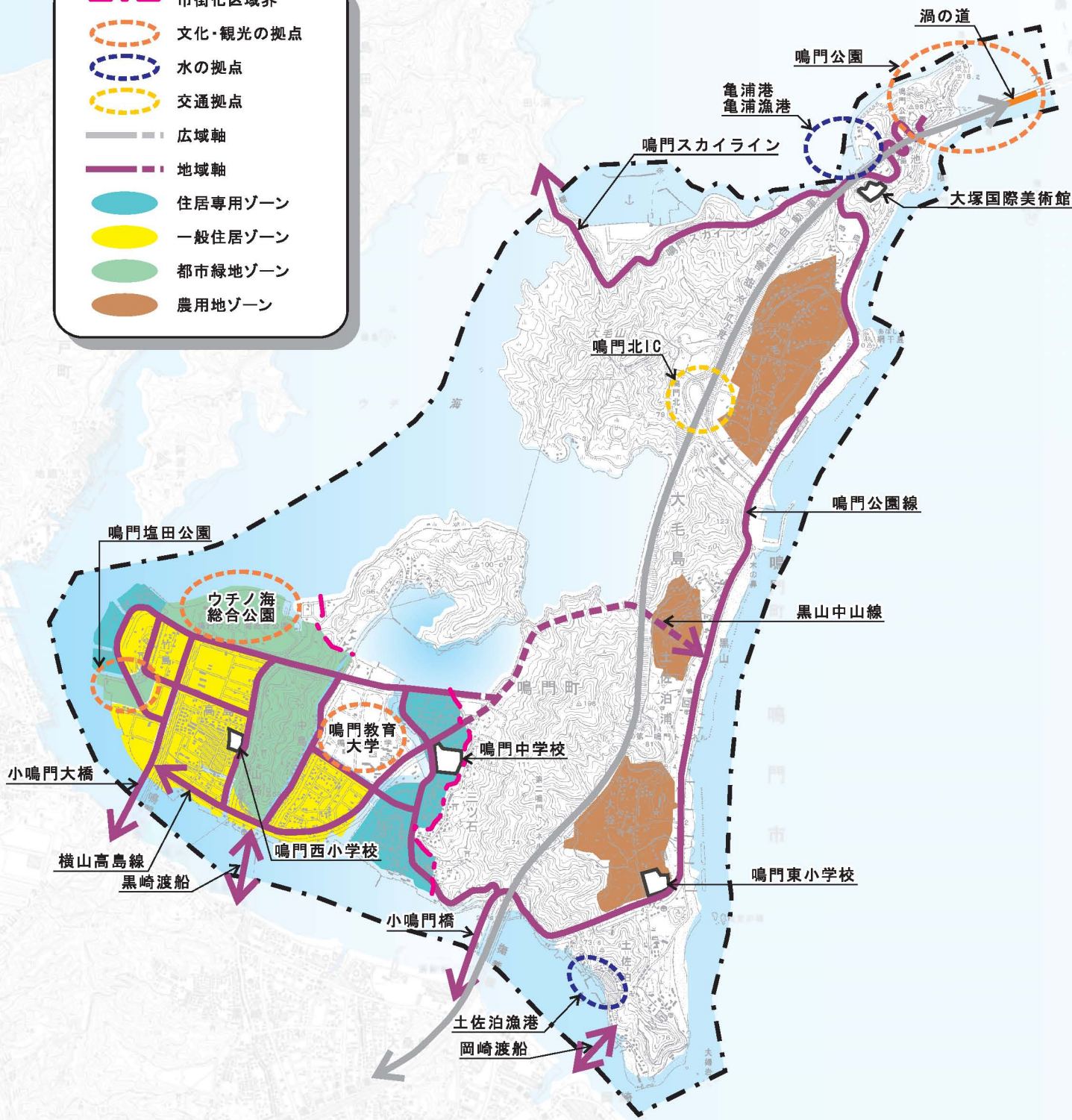
4-6 防災・生活環境その他特記事項

- 土佐泊地区の一部住宅が密集している地区については、建築物の立て替えなどに合わせ、セットバックによる細街路の道路拡幅、行き止まりの解消、ポケットパークの整備等を進め、防災機能の充実を図ります。
- 高島地区の各排水区における雨水対策を図ります。
- 鳴門市汚水処理構想に基づき、公共下水道（汚水）の整備を推進します。
- 定住人口や交流人口の増加に向け、地域の実情に応じて、U J I ターンや二地域居住など地域の活性化策について検討します。

鳴門町



- 市街化区域界
- 文化・観光の拠点
- 水の拠点
- 交通拠点
- 広域軸
- 地域軸
- 住居専用ゾーン
- 一般住居ゾーン
- 都市緑地ゾーン
- 農用地ゾーン



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平22業複、第228号）